

■報告

**道東技術士会主催「現場見学会」の報告**

道東技術士会の初の試みとして、現場見学会を開催したとの報告です。新しい企画に取り組まれることは、会の発展や活性化に大きく寄与されるものと思います。

現場見学会では、「十勝エコロジーパーク」と「千代田新水路」を見学されていますが、私は両方ともみたことがありません。同公園は、環境育成型公園を目指すとともに、現地で地元住民の意見を聞きながら基本計画が立てられたということで、最近の話題である地球環境に優しい公園ができあがるものと期待いたします。千代田新水路は、観光名所になっている千代田堰堤の流下能力不足の解消を目的として、実験水路まで造られているということですが、機会があれば私も見学したいと思います。

初の試みとなる企画の準備・実施を担当された関係者の方々には、大変なご苦勞をされたものと想像いたします。見学会を企画された関係者のご尽力に敬意を表するとともに、道東技術士会の益々のご発展を祈念しております。(Y.K 血液 AB 型)

**地域産業 第 9 回食の討論会  
「羊を通して食の問題を考える」**

今回は私も参加した第 9 回「食の討論会」について美味しく食してきた者としての感想を述べたいと思います。

まず、羊肉は世界では、おそらく牛肉の次に多くの人に食され、そして知られているものと認識していました。但し、日本では何故か？ 第 2 次世界大戦後の食糧難の時代でも、食肉としては北海道以外の地域に根づかなかったのも事実ですよ。その原因は比較的肉類を煮る(醤油などで)習慣のある日

本人の間では、羊肉のあの独特の臭みが馴染まなかったからだと思います。しかし、北海道では「ジンギスカン」という独特な食べ方を見出し、他の肉と比較して安価な羊肉は私自身、昭和 30 年代中(小学生低学年)から我が家でも盛んに出されていた記憶があります。但し、ジンギスカンは屋外で食べるもの、屋内ではカレー粉やニンニクとショウガ汁に漬けたものをフライパンでソテーして食べていたが…。

今回の試食では「メインの子羊ロースのアロースト ベリーとオリーブのソースとパスタ料理の子羊トリッパのラグーソース」が一押しで美味しく、またワインとの相性も素晴らしく至福の一時を過ごさせていただきました。

そんな、羊肉を皆さんもドンドン食べて北海道の特産品として再度、内地でブームを起こしたいですよ。

武藤さん、シェフの神津さん、そして今回の企画をしていただいた住友技術士に感謝、感謝です。

(J.I)

**防災委員会防災教育ワーキンググループ報告  
「区民センター事業「防災セミナー ―地震に備えて―」**

科学技術を支える技術者は、技術者の役割あるいは人々の期待から次の 3 つの事柄を求められている。1 つ目は、科学技術は人々の暮らしを豊にする反面、人類の生存を脅かす事態があり、この危害を抑止する責務であり、2 つ目は、地震、噴火、洪水等の自然災害から人々を救う責務であり、3 つ目は、人々は科学技術により色々な品物やサービスを受けており、更なる福利の提供である。しかしながら、阪神淡路大震災では技術者の信頼は無残に打ち砕かれた。これに対して神戸市民のひとり一人の共助が

復興に大きな力となり大きな脚光を浴びた。このことから技術者は予防保全の重要性を学んだ。自然災害から我が身を守る為に、技術者と行政、そして市民ひとり一人と一緒に「もしも災害が起こったら」に対して、事前に知識を蓄え、情報を共有し、準備を行っておくことは重要であり、「防災教育WG」の活動は非常に大切な活動である。技術士の誇りである。若手技術士を育成し、仲間に引き入れ更なる活動を期待したい。(S.H)

## 第10回食の討論会「地域資源について考える」

地方の活性化への取り組みとして、その地方の持つ地域資源をいかに生かすかという視点から捉えた報告文を、大変興味深く読ませていただきました。地域資源の分類定義から、歴史的背景や大量生産・大量消費が引き起こしてきた環境問題と、それらを見直す最近の動きやその資源活用の必要性などが色々な切り口から書かれています。エコなどあまり興味がなかったトンカチ一辺倒の土木屋には、大変耳が痛い話でした。

ただし、実は私には最初、何が言いたいのかまったく分からず、3回読んでキーワードに赤ペンを引いてやっと理解できた始末です。私の感想では、環境問題とはこんなに幅広いものかと、つくづく感じました。(おせっかい男MS)

## Air Mail to Hokkaido 「オリエント急行」に魅せられて

鉄道の旅にはロマンがある。ゆったりした時間の中で次々と流れていく車窓からの景色は、季節の移り変わりによってもその色彩が刻々と変化して、利用者の目を楽しませてくれる。飛行機では絶対味わうことの出来ない列車の旅の醍醐味である。

「オリエント急行」は1883年に開通し、歴史的にも当時の鉄道技術の粋を集めた列車で、アガサ・クリスティの小説でも有名であり、豪華列車としてヨーロッパの国々を回る様々なルートがあることは知っていたが乗ったことはなく、タキシードを着て

ディナーに参加してみたい夢を抱かせる。

鉄道のことを考えると私はどうしてもゲージ(軌道間隔)の問題が頭をかすめる。外国では国によって規格が分かれており、「標準軌」といわれる1,435mm(多くのヨーロッパ各国と日本の新幹線)、「広軌」といわれる1,524mm～1,668mm(スペイン、ロシア、オーストラリアなど)、そして日本のJRが採用している「狭軌」は1,067mmである。その他いろいろの規格がある。

オリエント急行はどのようにして軌間の違う線路を運行出来るのか。解決方法としては①三線軌道・四線軌道、②台車交換、③軌間可変車軸を備えた車両(フリーゲージトレイン等)の使用などが現在用いられているが、オリエント急行は台車交換で運行しているとのことである。

1988年(昭和63年)にはこのオリエント急行が日本にやってきた。パリー東京間を運行したと記録にあるが、ヨーロッパからロシア、中国、そして香港から船便で日本まではるばるやってきたそうで、当時実物をみられなかったのが誠に残念である。

今回の記事では、豪華な車内や旅でのいろいろな催し、通過駅での人々のいろいろなふれ合いなどが紹介され感銘を受けた。チャンスがあれば是非乗車してみたいものである。(K.T)

## ヤクーツクへ行ってきました

サハ共和国、ヤクーツク、レナ川、何となく聞き覚えがあった程度でしたが、興味深く拝読させていただきました。日が長い時期に行かれたようで一日を有効に使われ、いろいろと見学されているようでした。

社会資本整備の状況も紹介されておりましたが、これからという印象ですね。民族もアジア系ということで写真の花婿さんも相撲部屋の関取にもこんな感じの人がいるようで親しみも受けました。大学の第二外国語でロシア語を専攻して関心もありましたが、領土問題もあって遠い国ですね。佐藤さん、お疲れさまでした。(M.K)

## 「リージョナルステート研究会研修会報告」

今回、リージョナルステート研究会として初の寿都町視察研修会が催されたことが報告されましたが、寿都町と技術士会の付合いは10年余り前の地域産業研究会との繋がりが起点であり、今日もなお続いていることに改めて驚きを感じます。

近年、地域の自立、地域の活性化が盛んに叫ばれ、それには何より地域の潜在力＝地域力の強化が大切であると言われていますが、そこに住んでいる人々でも自分達の潜在力、地域の埋もれている資源を見付けることは至難の業だと思います。そうした時、地域外の人間である技術士が町の住民の方々と直に交流を深め、新鮮な感性でお互いを刺激し合い、それによってお互いに自分の故郷の良さを再認識できたとすれば、本当に素晴らしいことだと思います。

“地域を知る”ということは、その人々を知ることであり、風土、歴史、習慣を知ることであるという、至極当たり前のことをこの研究会が実践していることに敬意を表するとともに、この様な地道かつ継続的な地域交流活動が他の自治体でも展開していくよう期待しています。 (文責 H.F.)